## 脾疳發生ニ關スルニ三ノ事項

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2017-10-04
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者:
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38291

## 魯 雜 志 第十八巻第七號(第九十號) 大正二事七月一口熨行

原着及實驗

脾疳發生ニ關スルニ三ノ事項 (日本小兒科學會第十八回總會演說

岡 本京太 郎

レモ皆米粉榮養兒ニ來リシモノニシテ、Reisnährschaden ニ麏スルモノナ **養障碍ニ伴フ「キセロージス」或ハ角膜軟化サ有スル患兒サ實見セシモ、何** 

本病ノ發生シ得ルコトヲ知ルベシ、但シ余ハ乳兒期ニ於テ十數名ノ全身榮

眼乾燥症チ有スルモノヲ標準トシタルモノニシテ、確實ナル脾疳ト自信ス 脾疳ノ症狀ニ就テ」ト題シテ述ベタルモノ、如ク、全身榮養障碍ニ因スル 聊カ之ニ關スル小統計的觀察ヲ試ミ、以テ牌疳原因ノ研究ニ資セントス **並ニ脾疳ト稱スルモノハ、余が嘗テ第八囘日本内科學會總會ニ於テ「所謂** 

多クチ知ラズ、従テ之が眞ノ原因ハ未が確定セザルモノ、如シ、故ニ余ハ

所謂脾疳ナル疾病ハ、如何ナル要約ノ下ニ發生スルモノナリヤ、吾人尙其

性年齡二歲三歲四歲五歲六歲七歲八歲九歲十歲六 男 0 = 1 Ħ. Ξ 計 五

齢ニ從テ統計スレバ左ノ如シ

ルモノナリ、而シテ其實驗數今日迄二六十九名ニ達セリ、之ヲ先必性及年

但シ市中ノ患兒ハ大抵場末ノモノニシテ、且ツ皆輕症ナリシハ事實ナリ

家庭ノ職業ニ就テハ

此表ニョリテ見レバ、脾疳ノ最モ多ク發生スル年齢ハ、 ノ間ニシテ本邦常習ノ斷乳期ニ相當ス、然レドモ學童期ニ至リテモ尙且ツ 計 女 七 二 七七 Ξ 力 0 Ξ 0 Ŧi, 第二年ョリ第四年 0 六九 一八

ニシテ村落ノ兒童ニ甚ダ多キモ、市中ノ小兒モ亦屢へ之ニ罹ルチ見ルナリの 尹知ラザルナリ又之尹都市ト村落トニ類別スレバ ハ男兒ガ女兒ヨリ三倍ノ多數ヲ占ムルヲ見ルモ、余ハ未ダ其何ノ故ナルヤ **サ見ルハ、脾疳本態ノ研究上留意スベキ件ナリト信ズ、而シテ性ニ關シテ** ルガ故ニ、暫り茲ニ之ヲ省ケリ。併シ米粉養榮兄ニ「キセロージス」ノ多キ 村落四十人 市町二十九人

二十八人 不明 官吏 商 十四人 十四人 I. 僧侶 二人 三人

(原著及實驗

第 + 八 卷 第 七

號 一八九

第九十號

敷き得タリの

\_

但シ商ノ中ニ敷ヘシハ菓子屋、 第 米屋、 + 八 雜貨商、綿屋、 卷 酒屋 ラレシモノ四十名アリシチ以テ之チ類別セシニ 第九十號

料理屋、魚屋、味噌屋、宿屋、糀屋等ニシテ、何レモ中等以下ノ生活狀態 ニアルモノナリキ、之ニ依テ見レバ牌疳患者ハ農家ニ於テ最モ多ク、之ニ 强壯ナリシモノ

虚弱ナリシモノ(下痢症ニ罹リ易キ) 十二人

往ノ或ル疾病ト直接ノ關係サ有セザルサ示スモノナリ、余ハ之サ以テ麻疹、 ニシテ、發病前比較的健康ナリシモノ甚ダ多シト云フベシ、之レ本病ハ既

百日咳、或ハ胃腸障碍ノ誘因的關係ヲ否定スルヲ欲セザレドモ、本病が他

ノ疾病ノ症狀群ニ非ザルノ一證左タルヲ信ズルナリ

本病が急性傳染病ニョリテ誘發セラル、コト多シ、トハ先輩諸氏ノ説クト コロナルが故ニ、余ハ更ニ此關係チモ調査セシガ、「プロトコル」ノ不備ナ

少數ニ過ギザリキ ル爲メカ確ニ一定傳染病後ニ引續キ發生セシモノト信スベキハ、僅ニ左ノ

則チ

月

發

初 初

診

0 0

0 0

此外單純脾疳中、

初發時期ノ何月ナリヤ、

故ニ玆ニ算入セザリキ

テ、統計セリ

ナリ、故ニ余ハ六十九例ノ脾疳中ヨリ只僅ニ四十四例ノ單純ナルモノヲ得

**バ合併症サ有スルモノハ、爲メニ本病初發時期ニ誤認ヲ與フルノ恐アレバ** 

疳患兒ョリ合併症ヲ有スルモノヲ除外セザル可ラザルヲ感セリ。 何トナレ ルヤ明ナリ余ハ更ニ進ンデ四季ニ分テ觀察セント欲セシガ、玆ニ至テ全牌 次グハ商家ナリ。何レモ生活狀態ノ可良ナラザル家庭ノ小兒ニ於テ發生ス

月二月三月四月五月六月七月八月九月十月十 0 0 四 = Ŧi. Ξ 七一 四 t 九 = 七 \_\_\_ 月士 以テ本病ハ原發スルコト多クシテ、傳染病ニョリテ、誘發セラル・コト人 ノ信ズルガ如ク多數ナラザルチ知ルベシ 麻疹後 六人 百日咳後 六人 「マラリヤ」後

則チー例ハ春、二例ハ秋、二例ハ夏トノミ記載セシモノナリシガ 不明ナルモノ尙五例ア 之二反シテ母乳閉止或ハ其减少が本病發生ニー定ノ關係アルガ如ク見ユル モノ少カラズ、則チ母氏ノ死亡、妊娠。乳腺疾患或ハ全身病ニョリテ斷乳

是ニョリテ見レバ、本病ノ最モ多ク發生スル時期ハ、七月ニシテ、 初診ノ 算セリの故ニ斷乳(為メニ來ル脂肪不足?)が直接ニ本病發生ヲ促スカ、 セシ後引キ續キ本病チ發セリト云フモノ、余ガ六十九名ノ患兒中十九名チ 或

八月二最モ多キハ、發病後一ヶ月內外ニ醫治ヲ乞フモノ最モ多キガ爲ナラ ノ關係ナクシテ發スルモノモ亦甚ダ多キガ故ニ、本病發生ノ眞ノ要約八母 レニセヨ斷乳ト本病發生ノ間ニ密接ノ關係アルヤ明ナリ。 然レドモ斷乳ト ハ間接ニ斷乳後ノ榮養不適ノ結果胃腸障碍等ヲ來シテ之ヲ誘發スルカ、 何

乳ノ禁斷ノミナラザルチ知ルベキナリ

五月ヨリ八月ノ間、 ン、而シテ十月以後四月迄ニ本病ノ初發スルモノ極メテ少數ナルガ故ニ、 即チ春ノ末ヨリ夏ノ間チ以テ、本病發生ノ時期ト見做

シテ|可ナリ〜本患見既往ノ健康狀態ニ就テ、余が「プロトコル」中ニ明記セ

母乳ラ受クタルモノニシテ、二三年間モ母乳ラ受ケツ、アリシモノ少カラ ニアリシカヲ見ルニ ル可ラザルヲ遺憾トス、而シテ余が脾疳患兒ハ乳兒期中如何ナル榮養ノ下 併シ榮養法特二脂肪食品ノ不足が本病發生ニー定ノ關係テ有スルコトハ人 右ノ如ク斷乳後ニ於テモ、本患兒ノ榮養品中脂肪ノ供給十分ナリト見做ス ノニテ、其中「プロトコル」ニ記載アルモノ左ノ如シ 然ラバ則チ斷乳後ノ榮養ハ如何、余ノ患見ハ皆大人ノ如キ常食ヲ受ケシモ トナキモノトスフベシ ザルチ以デ、本病兒ハ他ノ兒童ニ比シテ嘗テ脂肪性粲養ニ不足ヲ感セシコ 長短ヲ顧レバ ニシテ、大多數、母乳榮養兒ナリキ、更ニ其母乳榮養兒ニ就テ母乳哺囁ノ トコル」ニ其關係ヲ明記セザルモノ多ク、從テ目下少數ノ統計ニ甘ンセザ **ノ是認スル所ナルヲ以テ、余ハ尙之ガ精査ヲ必要ト感ゼシモ、余ノ「プロ** ノ敷チ得タリ° 之ニ依テ見レバ本病兒ノ多敷ハ滿一年以上持續シテ十分ノ 四ヶ年 二ヶ年半 滿一年間 母乳及牛乳 魚肉不足ノ常食 十二人 (但シ本邦兒童ノ榮養脂肪ハ母乳牛乳ノ外主トシテ魚肉ヨリ供給セラ 三人 人 二十六人 三ヶ年 一ヶ年半 魚肉十分ノ常食 六人 4 母乳牛乳及米粉 乳 二ヶ年 三ヶ年半一人 十九人 四人 一人 係ョリシテ、眞ノ意味ニ於ケル供給攝取ニ不足アルニ非ザルヤノ疑アリ、 損害アルノ恐アルガ故ニ、肉食豐富ナル榮養ノ下ニアル本患兒モ這般ノ關 アルコト是ナリ榮養品ノ攝收消化ハ人ノ嗜好厭惡ト大ナル關係アルモノナ 間僻地ノ常習ニシテ、啻ニ脾疳患兒ノミナラズ一般兒童モ同一生活ノ下ニ スルモノナラン。兹ニ尙顧慮スベキコマハ、所謂「食ニ魚ナシ」ノ狀態ハ山 之ハ肉食供給ノ不足ヲ以テ脾疳發生ノ唯一ノ條件ト見做ス可ラザルヲ意味 食ノ不足ト關係ナシ、ト斷定センコトハ勿論早計タルサ発レズの要スルニ 肉食攝取不足ノ場合ニ發生スルモノモ亦少カラザルチ以テ、脾疳發生ハ肉 給不全ニョリテ發ス」テフ見解ハ稍く事實ト齟齬スルノ感アリの然レドモ フハ、余が嘗テ「所謂脾疳ノ症狀ニ就テ」テフ論文ニ敘述セシガ如ク、 故ニ余ハ更ニ患兒ノ嗜好ト厭惡トニ就テ調査セシニ ルガ故ニ、假令食膳ニ多量ノ肉食アルモ、之ヲ厭惡スルモノハ攝取消化ニ べキモノハ却テ多數ナルガ故ニ。今迄人ノ信ゼシ「脾疳ハ多ク脂肪食ノ供 **サ好マザルモノ、比較的多数ナルハ、普通小兒ノ嗜好ニ反スル奇異ナル現** 生ノ要約タルヨリモ寧ロ本病ノ一症狀タルコト多キが如シの其他茲ニ甘味 厭フモノモ亦少カラザルハ素ヨリ看過スル能ハズ、蓋シ本病兒ノ魚肉ヲ厭 ノ肉食不足ノ絕對的關係ヲ是認スルニ躊躇セザル事實ノ一ナリの併シ之ヲ ノ成績チ得タリ、則チ魚肉チ厭フモノヨリモ之ヲ好ムモノ多キハ、亦脾疳 厭惡 嗜好 魚肉 餅類 魚肉 二十七人 五人 一人 九人 甘味 果物 鹽味 不消化物 六人 九人 一人 七人 甘味 牛乳 三人 大

(原著及實驗

第十

Д

卷

第七號

九一九一

第九十號

Ξ

象ナラズヤ

第 ti

號

第 例 吉〇理〇 齢五年五ヶ月 (試験中病症漸次輕快ス

更二進デ余ハ魚肉ヲ好ミ、 ザルモ多ク與ヘザリ シ モ ノト及ビ之ヲ好マザル 且 ツ與ヘラル • モノト、 モ多ク與ヘラレシ 之ヲ厭忌スルカ |或ハ駅 £ 月

三別シテ統計セシニ 嗜好攝取供給豐富 十八人 嫌惡及供給不足 十二人

シテ、魚肉ヲ好ミ且ツ可ナリ十分ニ供給セラレシモノ、

Ŧī.

一十八%ノ多數

同

DU.

Ħ

樣形 中 中 管 有

O·三 三 玉

O O

19-1110

樣形三

軟膏有

H

食

品

性 大便

狀 "

薬餌 迪 脂肪

() 肝

嫌惡供給豐富

人

以上ノ事實ニョリテ之ヲ見レバ、 **尹占ム、以テ肉食缺乏が脾疳ノ唯一原因ナラザルチ知ルベ** 肉食ノ缺乏或ハ減少ガ(特ニ脂肪供給ノ

見ノ少部分ニ過ギズシテ、 不足)脾疳ノ原因トナリ、若シクハ之チ誘發シタリト信スベキハ、 リテ身體脂肪ノ不足ヲ來シ、以テ本病ヲ招致セシモノト見做ザルベカラ 其大多數ハ他種ノ原因 ニョル 力或ハ他ノ要約

牌雅患

同

六日

大根、按

梅鰤

同

Æ,

日

パン、煎餅 梅干、昆布、 薬根芋、

0.10

0.00

天 00美

0:==

0.0元四

三三語

同

八日

物ケ粥

大根漬

脾疳ノ原因ハ脂肪不足ニアリトノ説ノ當否ヲ決定スルニ就テ、第二ニ起

ズ

屎粉二就テ施行セシ脂肪定量ノ成績ヲ附記シテ、 試驗ノ如キ複雑ナル研究ニ著手スルノ便チ有セズ、 ベキ問題ハ本患兒ノ脂肪吸收ノ狀態ヲ知ルニアリ、 以テ聊力蛇足チ添ヘント 不得止嘗テ牌疳患者 然レドモ余ハ新陳代謝

同

十日

形、酸

性有

0.13

0.0六

三、宝芸四

同

九日

梅ゲ粥干、

大刀のカラ

三·0五/二 標、酸軟膏 三回、有 性、酸軟膏有

0・1回

0.0空

四門大

0.二元

0.0%

二· 兄言

兩ナガラ識者ノ非難ヲ甘受スルモノナリロ

但シ屎粉ノ脂肪定量法ハ隈川、

月

H

六月

而シテ技術ニ缺點アリシヤ否や自ラ之チ覺ラズ、且其例症ノ甚ダ少キ、

須藤氏法ニョ

四日 第二例 等粥 食 奥〇マ〇 + 벍 × クデ油ル薬 ) ス(脂肪ニ ルン肝ヨ 齢三年十一ヶ月 大便 狀 " 酸化物 「コレステレステリー 「コレステレステリー を不した。 一般に酸中ノ「コレステリー (試驗中病症漸次輕快

Part North or and the			grandon resu		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				William Michael	Manage of the Control				
八月九日	月		同十三日	同十二日	日十	同	同	同	同	同	同			
二日	В	第三例	日日	<u> </u>	<u>B</u>	十日	九日	八 日 -	七月	六日	五日			
梨米飯	食			腐粥	卵粥	粥	粥、鍵	<b>漬粥</b>	等粥	砂豆粥、梅腐、梅	砂豆粥、糖腐、煤、山、			
桃鯛	nn nn	酒〇勇〇〇		萬鰈」頭豆	豆鰈、腐鶏	鰈等	鰈、麩	大数	鯛鰈	梅蝶	山縣			
	(肝油) ル脂肪			型:八(二:0)	11-11(四:11)	八・0(m・0 m・0	九(三二	八六	0.10 0.10 0.10	一 お・版(間・間・間・間・間・間・間・間・間・間・間・間・間・間・間・間・間・間・間	八九(五八九)			
	性大便大	齢五年六ヶ月	色有形。裙	不通	)有形、褐	) 酸乃色 性至 粘粥有 液狀形	)有形	, ) 不通	)褟、有形	不通	ル有碳に同 カ形・原 リーア 、た 性ア 、た			
	験リース高 リース高級 ルション ルースス アラス アラス アラス アラス アラス アラス アラス アラス アラス ア	(試驗中病漸次輕快	0・1图場		0-120	0:=17	0•1111	l	0.1公	l	0・1宝-			
	齢ンレ中 化 ツーステーコ 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大		0.001	1	040.0	0.0411	0.0KE	1	0.05	1	040.0			
	脂中 肪ノ粉 電量中 性 大		10•八七八四		七三三	五・二七一六	一次・七三六〇		三、会長		0.040 1八.九三云			
障 意	障 意 吸 較 以 碍 味 收 的 上													
アスリル	吸收ノ障碍	上 ノミ	同七日	同六日	同 五.	同四	九月一	同廿三日	同廿二	同廿二	日日			
肝油療	アシリテ	ノ三表ニョリ	Ы		日郷、煎餅、煎餅、	日米飯鶏卵、葡萄	H 餅米 茶飯、	日百合根、鯛餅	日 煎口米 餅魚飯	日 鯛米 前、飯	<b>鲜鰈口米</b>			
肝油療法ニョ	モ 肝	テ見レ		クキ、	パン煎餅、	葡卵	鰈	前ラ鯛卵	鰈鹽 	前縣	梨芋鶏腐大			
リ テ カ 肝	· 與 肝後 油 漸	ri 可					pei -	=	÷	=	-			
テ肝油自己カ"換言ス	· 肝油療法 :	ν e	形一	形一	便一		10500五	元 0五 形一	元0五形	元 元 形二	五			
已スソ	ニョクト	肾	門	间	門	同	间	爬	间	间	ア形一一ル粘褐回カ稠色・※			
フ脂肪	り傾;	田	有	有	軟_	下	有_	有	有	有	リ 淡 性弱有黄			
ハ勿論他ノ食物脂肪(Nahr-部ノ脾疳患兒ニハ脂肪吸收ノ	脂肪ノ吸呼作用旺盛トナルチルディーション		0・10元至		0-14回来		. 1	0-1110	0-10%	0.1110	0 : 1 公			
対象を	呼作用った。	ノ果い						i						
脂肪	歴 蓋シ	脂肪	0.0点)	]	0.01111重		1	0.0110	0・0面形	0,000	一萬二			
(Nahr-	トナルチ肪	宮量バ比	七・六三氏		一五·八九二		1	中一日中国	<b>☆</b> ラス	0.0M00 10.EK00	0・012年 1六・八九二元			

(原著及實驗)

第七號 一九三

第十八卷

Ħ.

第九十號

犯スハ、彼ノ山間僻地ニアリテ脂肪供給ノ豐カナラザル上ニ、暑氣或ハ傳 多キ本病發生ノ要約ト見做シテ可ナランカ、本病が夏季農業家ノ兒ヲ多ク 牧作用障碍セラルレバ、同り本病ヲ發生シ得べり、寧ロ後者ヲ以テ比較的 **發生シ得レドモ、又假令脂肪供給豐富ナルモ何等カノ原因ニョリテ之が吸** 此等ノ事質ニョリテ考フレバ、脾瘠ハ脂肪供給ノ著シク減ジタル場合ニモ

Ξ iV

リノ研索力其別種ノ疾患タルコトラ發見シタル例勘カラサルカ故ニ獨リ モノアリ或ハ又已知ノ或ル疾病ト類似ノ病變ヲ呈スルモノニシテ他方面 狀チ認メスシテ他ノ方面ヨリ之チ研究シ以テ其本態及類別ノ闡明セラレタ

ハー定ノ疾病(特ニ小兒祭養病ノ如キ)ニハ假之精細ニ解屍スルモ特種ノ變

得サルヲ以テ此問題ヲ決定スルニ大ニ躊躇スル所アリト雖吒又退ラ考フレ 病理解剖ニ就テハ米タ報告セラレシコトナク余モ亦之ヲ剖見スルノ機會ヲ

程大膽ナル能ハズ、玆ニ只體內ノ脂肪不足が脾疳發生ノ大ナル要約タルベ

キヲ是認スルニ過キザルナリ

●所謂脾疳ハ獨立ノ疾患ナリヤ

岡

本

京

太

郎

是ナリ

Ę

獨立特種ノ疾患ト見做スモノ

己知ノ或ル疾病ト同一若クハ其變態トスルモノ

他ノ疾病ノ症狀群ニ過キズトスルモ

同氏ノ如ク脾疳ノ發生ヲ單ニ此脂肪不足ノミニ歸シテ、

他ノ要約ヲ顧ザル

ズ

三派アルカ如シ則チ

ランコトラ懐に臨床上ノ觀察ニョリテ聊力茲ニ本問題ニ一指ヲ染メント欲

上ノ所見ナクトモ諸多ノ方面ヨリ考究スレハ途ニ此問題ヲ解決シ得ルニ至 病理解剖ノミ這般ノ問題ヲ解決スル鍵鎗ナリト云フベカラス故ニ病理解剖

今所謂脾疳ナルモノハ獨立ノ疾患ナリヤ否ヤニ就テ學者ノ所説ヲ案スルニ

モ適切ナル榮養品ナルガ故ニ、特ニ効ヲ奏スルモノナランカ、此點ヨリ見 スルモノト説明シ得ルが如シ、而シテ肝油ハ其體内ノ脂肪饑餓ヲ補フニ最 染病胃腸疾患等ノ爲メニ之が吸收作用障碍セラレテ、本病ノ發生ヲ容易ニ

レバ吾人ハ森氏ノ Lipaporia 説ヲ是認セザル可ラザルガ如キモ、余ハ未ダ

ラサルヤ果タ或ハ確ニ特種ノ一疾患ト見做スベキヤニ就テ考究シ以テ之力

テ本邦二於ラ著シク多キハ統計上明ナル事實ナリ論者ノ言ノ如ンバ小兒ノ ルニ過キスト然レド脾瘠ノ固有症狀タル眼乾燥症ハ歐洲ニ於テ甚タ稀ニシ 兒ニ現ハル、モノニシテ小兒ノ生理的特異性ニョリテ異態ノ症狀チ現出ス ハ曰ク吾人ノ脾疳ト稱スル症狀ハ慢性腸加答兒或ハ腸間膜腸療ニ罹レル小 第一説タル是サー種ノ疾病ト見做サスシテ單ニ症狀群トナスモノ(池田氏)

ル疾病ノ症狀群ニ過キサルヤ或ハ人ノ已ニ知了スル或ル疾病ノ變態ニハア トスルヲ肯セサルモノ少カラス故ニ吾人ハ所謂脾疳ト稱スルモノハ單ニ或 ナルコトラ疑ハスト雖モ又之ヲ他ノ疾病ノ症狀群ト見做シテ特別ノ一疾患 所謂脾疳トハ果シテー種獨立ノ疾病ナリヤ否ヤ多クノ學者ハ是カ獨立疾患

モ之が為メニ其吸收ヲ催進セラル、モノニ非ルナキカ

+

八

卷

第

t

號

第

決定ヲ與フルコトノ切要タルヲ感スルナリ然レ圧所謂脾疳患兒ナルモノ、